

三次市 市民と行政の行財政改革基本理念(参考資料)

(検討過程での意見交換要旨)

2005年(平成17年)3月17日

三次市行財政改革推進審議委員会

(行財政改革全般)

行財政改革は、単に経費を節約して他へ使おうというのではなく、50年後100年後の行政にどのような夢を抱いてどこで汗をかければ良いかを考えることが必要。

夢を夢で終わらせてはいけない。実現可能な将来像、ビジョンを掲げて、その実現のために市政を運営していく責任がある。

行財政改革は、市民のため、将来のためのもの。安心して暮らせる豊かで活力のある地域をめざすもの。正直と公正を重視し、市民参加型で。

高齢者から若者までみんなが三次に残ってやっていきたいという町づくりが大切であり、そのためには、やるべき事業とそうでない事業の選別、子どもの教育や人々が帰ってこれる環境づくり、企業誘致などが必要。

行財政改革は自分自身で考える自己改革、意識改革だと思う。変革への抵抗もあり、風土改革・体質改革が必要。これからは、ハードよりもソフト。考え方をどう変えるかが大切。

合理化だけでなく将来の夢を追うことが必要。若者や企業を育て、活気のある町に。予算配分を洗い直して、切ることと伸ばすことが必要。

成果主義にとられすぎると、結果重視のあまり短期的成果志向に陥りがち。プロセスを大切に、真に新たなものの模索のための必要な無駄を惜しむべきではない。

近視眼的にプロセスよりも結果だけを見るのではなく、効率と非効率のバランスもあっていいし、中途半端が良い場合もある。

行財政改革にも、「学」の活用がありうる。

行財政改革は、究極は住民サービスの質を高めること。それには厳しい取り組みが必要だからこそ、優しさや楽しさといった面も重視する必要がある。

行財政改革はルネッサンス。新たな発想でゼロからの再構築。やらない言い訳よりもひとつのチャレンジから始めるべき。みずからの手での変革体験が重要。

借り物の言葉や手法論ではなく、現場原点で自分の言葉での議論が必要。現場の必然性から生まれた実感のある取り組みの積み重ねから。

必要なのは、行政の使命、めざすもの、優先順位を明らかにし、達成目標を設定して責任を明確にすること。

行財政改革は無から有を生み出すものではなく、元々ある力を発揮できる環境を作ること。行政の力が発揮できる環境を生み出すことが求められている。

(議会の役割)

キーワードは意識改革。住民の意識改革も大切。議員への陳情という感覚が国全体で770兆円という借金を生み出している。議員を育てるのは住民。行財政改革の提言には、民間としての立場からの意見の反映も大切。

今までは議員さんに要望しても受け入れられない仕組みだった。住民と議員の関係も変わっていくし、行政と住民がパートナーとしての関係も大切。

何が一番必要かを考えると、子ども、高齢者、子育て、結婚といろいろあるが、それに優先順位をつけていく必要がある。議員についても、できないことはできないと言えることが必要。また、職員が自由に発言できているかが大切。

(透明性)

透明性が大切。行政が計画するに際して、住民の声を聞きながら住民の理解が得られることが大切。

情報公開についても、貸借対照表、損益計算書、財産目録などもっと分かりやすいようにすることが必要。合併駆け込み投資の見直しも。

(住民と行政)

これまでお役所任せできたために、意見がなかなか出ない。ただ、自治組織の活動をしていると住みやすい地域づくりをしたいとの思いがあり、行政の協力の必要性は感じる。地域

の人口は増えないが、歳をとったら帰ってくることも考えられるので、自然を大切に、川も山もきれいにしたいと思う。しかし、お金がないし、老人福祉施設もない。

最近新聞紙面で三次の名前を見る機会が増えて、地域を意識することが多くなった。普段は取り立てて行政のことを考えることはなかったが、住民としての立場で考え発言していきたい。

住民は権利ばかり主張することが多いが、義務も考える必要があると思う。地域づくりの共同作業者としての自覚を持って責任を果たしていくことが必要。

市民と行政との役割分担を明確にする必要がある。市民にできることは市民でという意識を市民一人ひとりが持ち、市民みずからの地域づくりに取り組むことが必要。

行政改革はまだ分かるが、財政改革は普段縁がなく分かりにくい。地域では、役場が支所になって人数が減ったため、地域の人たちにとってちょっと相談に行こうということがなくなってきている。商店街の振興もなかなか難しいが、なんとか個性を出して元気を出したい。

住民の意見を聞くといいながら、実際には上から決まってきている。住民自治組織の声が行政の内部に届くことが必要。

夢をかなえること、市民の道徳心、参加意識の涵養が大切。

行政には、税金を払って専門家に行政をやってもらっているという期待がある。右肩上がりの時代に中央の官僚に任せていたことへ反省を基に、地域での公民館を中心とした自分たち自身による地域づくりを生かしていきたい。

三次市では、各種委員会の設置など市民の意見を聞こうとする熱意が感じられる。国会の議論では熱意が感じられない。権限移譲で、広島に行かなくても済むようになることは良いこと。情報公開と市民の声が届く方法の工夫、結果評価・成果説明が必要。

行政と市民の役割分担を明確にする必要がある。市民の行政依存体質を改め、NPO、ボランティア、自治組織などを活用することが重要。

行政のあり様は住民意識の反映。住民と行政の協働は、単なる言葉だけでなく、失敗を恐れず一緒に取り組む姿勢が必要。

行政と市民との敷居を低くすることが必要。職員は、思い込み、独善にならないよう、市民と同じ土俵で議論することを重視してほしい。

（市行政）

市長の取り組みで市のイメージが明るくなった。これからは、今までの延長で何でもただというのではなく、お金を使うところには使うという見直しが必要。子どもへの支援に重点配分すべき。

これまでは右肩上がりの経済成長でお金を気にしなくてもやってこれたが、そうでなくなっている。国の官僚は、自分の生活が地域と結びついていないがために緊張感がない。地域では、めざすべき目標、夢、子どもが大人になった時にどんな社会になっているのか。先を読んだ行政の取り組みと風通しの良い行政、行政内部のコミュニケーションが大切。

行政は、内部と外部の意見を尊重し、建設的な議論をする風土づくりに努めるべき。

（地域課題）

マニフェストに基づく経費削減など取り組みの成果は感じる。政策としては、子育て支援の前に、結婚し子どもを育てる環境づくりが必要だと思う。国際的競争力のある人材育成も大切。支所で住民が相談に対応するといったこともありうる。

地元企業も人材確保に苦労している。50年後、100年先を見た町づくりを考えていく必要がある。

通院や買い物のための公共交通手段や高齢者介護への支援など、目が行き届かないところへの支援が大切。支援を受けるための手続きを知って・やって得をしたり、知らないで・やらないで損をするということがある。また、生活保護のあり方など、社会の不条理も感じる。

市民はみんな機会均等。ただし、その中でも、一人ひとりいろいろな立場の人がいることを理解して、同じ三次市民として暖かく見て必要な支援を考えてほしい。

(組織改革)

三次市は他市よりも色々よくやっていると思うが、内部で意見が言いやすい環境になっているかという検討が必要。

全ては地域と市民のために、だと思う。夢・希望・活力。職員がトップの夢についていけ、トップが独りよがりにならないために、職員が発言できる環境づくりが必要。

若さと現場の創意工夫を生かすダイナミズムが必要。組織目的のビジョンを示し、不要な重しを取り除いて、職員の持つ内在力を発揮させることが大切。

経済が拡大しない時代には今までのやり方では通用しない。率直に言って、今の行政への不満はあまりないし表面的には評価できるが、本当に職員の創意工夫を生かすようになっていくかは考える必要がある。

トップが指示するだけでなく、職員が自分で考え行動するようになること、職員自身が変わることが必要。

市長と職員との関係が開きすぎないことが必要。幹部職員にも結果責任意識が必要である。課長以下の職員には、徹底した現場主義と専門知識によりプロ意識のあるエキスパートとして活躍してほしい。

職員を積極的に組織外に派遣して、民間意識の導入を進めるべき。

職員の意欲と質の向上に努め、透明度の高い公明正大な行政の実現に努めるべき。

(財政改革)

交付税の減少を前提とした財政運営が必要。マニフェストについては、執行に当たっては住民への十分な説明と議会での議論が必要。情報公開により透明性を高め、全てを明らかにした上で、全員の納得でなくても多数の納得が得られる判断が必要。

行政には社会のために必要な名誉ある赤字もある。また、支出についても、許される範囲で高齢者には少し我慢していただいて、若い人たちのための投資を優先するという考え方もある。次の世代のためにという考え方が大切だと思う。

支出の削減だけでなく、収入を増やすという発想も大切。適切な受益者負担など。

企業的なコスト意識が大切。事業費と経常経費の仕訳感覚も。

マンネリ化しそうな事業内容や予算配分等を、企業的な目を持って検討してほしい。

10年後20年後を見すえた計画的な投資を。

(社会の課題)

現場で思っていることを発言したい。高齢者へのケアが充実しつつあるが、少子化の中で次代を担う子どもに投資する必要があると思う。そのために何をすればいいかを考えたい。

社会の不条理への怒りを持つことは大切。また、夢を持っていない子どもに夢を持たせる必要がある。児童館のちゃんとしたのがない。

問題は感じて、解決のためにどうしたらいいのかが分からない。システムを知っている人に方法論を出してもらえば良いと思う。

全体のことは良く分からない。市街地の活性化や企業誘致などの仕事が必要な割合を占めていると思うが、地域ではそれだけではうれしくない。自然を大切にしたい自治会の取り組みが大切だと感じるし、まちづくり基本条例など地域からの取り組みが大切だと思う。

(以上)